

舊水戸藩給人

故 小泉 虎次郎

元治甲子田丸稻之衛門等波山ノ義興等アル
ニ當リ之ニ從テ各地ニ轉戦ニ武田元伊賀
守等ノ西上スルヤ之ニ屬シテ行ニ沿道諸藩ノ
兵ヲ撃破スルニ參加シ霜雪ヲ冒シ艱苦ニ
耐ニ新保驛ニ抵リテ元伊賀守等ト共ニ金
澤藩軍ニ降リ翌年死ニ處セラル

内

閣

常陸國行方郡潮來町農

故 唐津 俊藏

元治甲子贈正五位林五郎三郎等潮來館ニ
據ルニ方テ之ニ從ヒ那珂湊等各地ニ轉戦シ武
田元伊賀守等ノ西上ニ及ヒテ之ニ屬シ行ニ沿道
諸藩ノ兵ヲ數テ破スルニ參加シ霜雪飢寒ノ艱
苦ヲ凌キ越前新保驛ニ抵リテ金澤藩諸軍
ニ降り翌年元伊賀守等ト共ニ敦賀ニ於テ死
ニ處セラル

内

閣

從五位
從五位
從五位

常陸國行方郡上戸村里正長子

故前島德之介

同國同郡玉造村農

故溝口太三郎

同國鹿島郡大貫村小寺

故堀總介

同國那珂郡大宮村農

故内藤昇一郎

故前島德之介初潮來館入り後波山義

内

閣

徒ニ從テ故溝口太三郎故堀總介故内藤昇

一郎ハ初ヨリ波山義徒ニ從ヒ田九稻之衛門等

ト一轍ノ進退ヲ爲シ行ニ沿道諸藩ノ兵ヲ殺テ

破スルニ參加シ霜雪飢寒ノ艱苦ニ耐テ越

前新保驛ニ依リテ武田元伊賀守稻之衛

門等ト共ニ金澤北藩軍ニ降り翌年故賀

ニ在テ幕命ニ依リ死ニ處セラル

常陸國行方郡上戸村里正長子

故前島德之介

同國同郡玉造村農

故溝口太三郎

同國鹿島郡大貫村小寺

故堀總介

同國那珂郡大宮村農

故内藤昇一郎

故前島德之介初潮來館入り後波山義

内

閣

徒ニ從テ故溝口太三郎故堀總介故内藤昇
一郎ハ初ヨリ波山ノ義徒ニ從ヒ田九稻之衛門等
ト一轍ノ進退ヲ爲シ行ニ沿道諸藩ノ兵ヲ殺テ
破スルニ參加シ霜雪飢寒ノ艱苦ニ耐テ越
前新保驛ニ依リテ武田元伊賀守稻之衛
門等ト共ニ金澤北藩軍ニ降リ翌年故賀
ニ於テ幕命ニ依リ死ニ處セラル

常陸國茨城郡竹原村農

故 島田文右衛門

元治甲子田丸稻三衛門等、筑波山に據ルニ從ヒ
砲術ヲ傳ヘルヲ以テ其ノ任ニ當リ、那珂湊各地ニ
轉戰シテ功アリ、武田元伊賀守等ノ西上ニ際シテ
之ニ屬シ行ヒ沿道諸藩ノ兵ヲ撃破スルニ參加
シ霜雪飢寒ノ苦楚ヲ凌キ、越前新保驛ニ抵
リテ元伊賀守等ト共ニ金澤北藩軍ニ降リ、翌三
年就賀ニ於テ幕命ニ依リ死ニ處セラル

内

閣



内閣書
記官室
秘第2387
7. 9. 26

贈位之儀内申

故小泉虎次郎
故唐津俊藏
故前島徳之介
故溝口太三郎
故児総介
故内藤昇一郎
故島田文右衛門

右七名ノ者ハ去大正四年御大禮御舉行ノ際贈位ノ恩命ヲ蒙リシ鈴木秀太郎外三名ト同時ニ別紙之通内申致候者ニ有之候處御沙汰漏ト相成居候條今秋陸軍特別大演習御舉行ノ際恩典ニ浴シ候

茨城縣

様御詮議相成度此段内申候也

大正七年九月二十五日

茨城縣知事力石雄一郎



内務大臣法學博士水野鍊太郎殿

秘
七
九
二
六

贈位之義内申

大正四年十月十日

贈從五位

贈從五位

故 鈴木 秀太郎

故 高野 長五郎

故 小泉 虎次郎

故 唐津 俊藏

故 前島 徳之介

故 溝口 太三郎

故 兜 総介

故 内藤 昇一郎

故 島田 文右衛門

故 大和田 外記

故 龜山 勇右衛門

贈正五位

贈從五位

茨城縣

右十一名ハ尊攘ノ大義ノ為一身ヲ犠牲ニ供シ元
治甲子ノ難或ハ一隊ノ長トナリ或ハ軍機ニ参与
シテ常野ノ間ニ轉戦苦闘ノ末武田正生カ衷情ヲ
京師ニ訴ヘムトシテ迂途西上スルニ及ヒ皆之ニ
從ヒ行キ艱苦ニ耐ヘ諸藩兵ノ要撃ヲ打破シツツ
越前新保驛ニ至リ全軍金澤藩軍ニ降り翌春死刑
ニ處セラレタル者ニシテ孰レモ錚々タル志士ニ
有之候條今秋御大禮御挙行ノ際贈位ノ恩典ニ浴
セシメラレ候様御詮議相成度別紙有志申請書相
添此段内申候也

大正四年八月六日

茨城縣知事

内務大臣

御贈位之恩典申請

舊水戸藩先手同心組

鈴木秀太郎

同

高野長五郎

同給人

小泉虎次郎

常陸國行方郡潮來村農

唐津俊藏

同國同郡上戸村里正

久五郎長子

前島徳之介

茨城縣

同國同郡玉造村農

溝口太三郎

同國鹿島郡大貫村小山守

兜総介

同國那珂郡大宮村農

内藤昇一郎

同國茨城郡竹原村農

島田文右衛門

同國真壁郡青木村醫生

昌元長子

大和田外記

下野國阿蘇郡舩越村里正

龜山勇右衛門

右秀太郎長五郎ハ舊水戸藩先手同心組勤務中同藩士林五郎三郎正徳等尊攘ノ説ヲ主張シ同志ヲ糾合シテ潮來館ニ據ルヤ二人奮起往テ之ニ属シ奔走盡力スル所アリ尋テ幕軍及市川弘美等ノ奸徒ト各地ニ連戦シ那珂港ヲ固守スルコト数阅月武田正生等ノ西上ニ及ヒ二人之ニ從フ秀太郎一隊ヲ帥ヒテ奮闘劊ヲ被リ猶木屈セズ衆之ヲ壯トス進ムテ越前新保驛ニ至リ正生等ト俱ニ金澤藩軍ニ降ル實ニ元治元年甲子十二月十一日十リ遂ニ敦賀ニ拘留シ翌年乙丑二月十五日幕命ヲ以テ死ニ處セラル秀太郎年二十七長五郎二十四虎次郎少時業ヲ原任藏_(市之進)ニ受ケ夙ニ尊攘ノ議ヲ唱フ田丸直允等波山ノ義學アルニ當リ往テ之

茨城縣

ニ從ツテ各地ニ轉戦ス武田正生等ノ西上スルヤ奮然之ニ屬シ行々沿道諸藩ノ兵ヲ撃破シ新保驛ニ於テ金澤藩軍ニ降リ翌年二月十五日死ニ處セラル年二十一俊藏ハ幼年宮本茶村ノ門ニ學ヒ文敏ヲ以テ稱セラル林正徳等潮來館ニ據ルニ及ヒ俊藏之ニ從ヒ那珂港等各地ニ轉戦シ武田正生ノ西上ニ属シ秀太郎等ト同シク進退ス翌年二月十五日死ニ處セラル年三十九徳之介父ヲ久五郎ト曰フ上戸村ノ門地家ニシテ累世里正タリ徳之介氣概アリ初メ潮來館ニ入り後波山勢ニ從フ太三郎ハ行方郡玉造村ノ人世ニ農ヲ業トス然介ハ鹿島郡大貫村ノ人小山守ト稱

茨城縣 高野長五郎 茨城縣 鈴木秀太郎 茨城縣 小泉虎次郎 茨城縣 唐津俊藏 茨城縣 前島徳三郎 茨城縣 満口二

乃太郎長五郎ハ舊水戸藩先手同心組勤務中同
林五郎三郎正徳等尊攘ノ説ヲ主張シ同志ヲ
召シテ潮來館ニ據ルヤ二人奮起往テ之ニ属シ
是盡力スル所アリ尋テ幕軍及市川弘美等ノ奸
各地ニ連戦シ那珂港ヲ固守スルコト数回月
山正生等ノ西上ニ及ヒ二人之ニ從フ秀太郎一
帥ヒテ奮闘劔ヲ被リ猶木屈セズ衆之ヲ壯ト
進ムテ越前新保驛ニ至リ正生等ト俱ニ金澤藩
降ル實ニ元治元年甲子十二月十一日ナリ遂
賀ニ拘留シ翌年乙丑二月十五日幕命ヲ以テ
處セラル秀太郎年二十七長五郎二十四
郎少時業ヲ原任藏^{市之進}ニ受ケ夙ニ尊攘ノ議
日ノ田丸直允等波山ノ義學アルニ當リ往テ之

茨城縣

ツテ各地ニ轉戦ス武田正生等ノ西上スルヤ
然之ニ屬シ行々沿道諸藩ノ兵ヲ撃破シ新保驛
テ金澤藩軍ニ降リ翌年二月十五日死ニ處セ
ル年二十一

ハ幼年宮本茶村ノ門ニ學ヒ才敏ヲ以テ稱セ
林正徳等潮來館ニ據ルニ及ヒ俊藏之ニ從ヒ
川港等各地ニ轉戦シ武田正生ノ西上ニ属シ秀
等ト同シク進退ス翌年二月十五日死ニ處セ
ル年三十九

之介父ヲ久五郎ト曰フ上戸村ノ門地家ニシテ
世里正タリ徳之介氣概アリ初メ潮來館ニ入り
以山勢ニ從フ太三郎ハ行方郡玉造村ノ人世ニ
業トス然介ハ鹿島郡大貫村ノ人小山守ト稱

茨城県
鈴木秀太郎
高野長五郎

茨城県
小泉虎次郎

茨城県
唐津俊藏

茨城県
前島徳之介

茨城県
溝口三郎
荒瀬

ス藩林監視ノ職タリ昇一郎ハ那珂郡大宮村ノ農
ナリ各々憂國ノ志ヲ抱キ田丸直允等義兵ヲ筑波
山ニ擧クルニ及ヒ皆往テ之ニ從フ始終直允ト一
轍ノ進退ヲ爲シ翌年二月共ニ死ニ處セラル徳之
介年二十九太三郎四十一総介四十八昇一郎三十
四
文右衛門ハ茨城郡竹原村ノ産ニシテ長身強力武
技ヲ好ミ水戸ニ遊ヒ砲術ヲ學ヒ正義ノ士ト交ル
田丸直允等筑波山ニ據ルニ及ヒ往テ之ニ從フ是
ヨリ波山勢ト共ニ進退シ那珂湊各地ニ轉戦シテ
功アリ武田正生ニ屬シ長驅西上シ敦賀ニ於テ翌
年二月十六日死ニ處セラル年三十
外記ハ真壁郡青木村ノ産ニシテ父ヲ昌元ト曰フ

茨城縣

醫ヲ業トス外記天資流毅ニシテ氣概アリ田丸直
允等カ筑波山ノ義擧ヲ聞キ往テ之ニ從ヒ一隊ノ
分隊長ト爲リ下妻多宝院ノ戦ニ幕軍ヲ撃破シテ
功アリ那珂湊等各地ニ轉戦シ武田正生ニ屬シテ
新保驛ニ至リ金澤藩軍ニ降り翌年二月十六日死
ニ處セラル年二十六
勇右衛門ハ下野國阿蘇郡舩越村ノ里正ニシテ平
田篤胤ニ就テ國典ヲ學ヒ常ニ尊王ノ説ヲ主張シ
田丸直允等カ筑波山ノ義擧ヲ聞キ往テ之ニ從ヒ
專テ輜重ヲ司トリ那珂港等各地ニ轉戦シテ頗ル
功アリ最後武田正生ニ屬シテ長驅西上シ越前新
保驛ニ至リ金澤藩軍ニ降り翌年二月十六日死ニ
處セラル年二十六

内藤昇一

島田文八

大和田外

龜山勇藏

潘林監視ノ職タリ昇一郎ハ那珂郡大宮村ノ農
リ各々憂國ノ志ヲ抱キ田丸直允等義兵ヲ筑波
ニ擧クルニ及ヒ皆往テ之ニ從フ始終直允ト一
ノ進退ヲ為シ翌年二月共ニ死ニ處セラル徳之
斗二十九太三郎四十一総介四十八昇一郎三十

石衛門ハ茨城郡竹原村ノ産ニシテ長身強力武
ノ好ミ水戸ニ遊ヒ砲術ヲ学ヒ正義ノ士ト交ル
丸直允等筑波山ニ據ルニ及ヒ往テ之ニ從フ是
リ波山勢ト共ニ進退シ那珂湊各地ニ轉戦シテ
二月十六日死ニ處セラル年三十

記ハ真壁郡青木村ノ産ニシテ父ヲ昌元ト曰フ

茨城縣

ヲ業トス外記天資沈毅ニシテ氣概アリ田丸直
寺カ筑波山ノ義擧ヲ聞キ往テ之ニ從ヒ一隊ノ
隊長ト為リ下妻多宝院ノ戦ニ幕軍ヲ撃破シテ
アリ那珂湊等各地ニ轉戦シ武田正生ニ屬シテ
赤驛ニ至リ金澤藩軍ニ降り翌年二月十六日死
ニ處セラル年二十六

石衛門ハ下野國阿蘇郡船越村ノ里正ニシテ平
馬胤ニ就テ國典ヲ学ヒ常ニ尊王ノ説ヲ主張シ
丸直允等カ筑波山ノ義擧ヲ聞キ往テ之ニ從ヒ
ノ輜重ヲ司トリ那珂港等各地ニ轉戦シテ頗ル
アリ最後武田正生ニ屬シテ長驅西上シ越前新
驛ニ至リ金澤藩軍ニ降り翌年二月十六日死ニ
處セラル年二十六

茨城縣
内藤昇一郎

茨城縣
島田文衛門

茨城縣
大和田外記

茨城縣
龜山重正衛門

以上十一名孰レモ一身ヲ大義ノ犠牲ニ供シ甲子ノ難常野ノ間ニ轉戦苦闘ノ末武田正生カ衷情ヲ京師ニ訴ヘムト欲シテ迂途西上スルニ及ヒ皆之ニ隨ヒ行ニ飢寒雨雪ノ艱苦ニ耐ヘ諸藩兵ノ要撃ヲ打破シツツ越前新保驛ニ至リ全軍金澤藩軍ニ降り翌春死刑ニ處セラレ候御維新後首領正生ヲ始ノ同行ノ重立タル者夫々追賞ノ特典ニ浴シ候處前記十一名ノ義ハ或一隊ノ長トナリ或ハ軍機ニ參與シ尋常卒伍ノ比ニハ無之將々タル志士ニ御座候間私共奮同志ノ關係上聊力遺憾ニ不堪候ニ付今回相當ノ御贈位奉仰度若シ御詮議相成候上ハ彼等ノ靈魂必ス泉下ニ感泣仕候義ト奉存候此段申請仕候也

茨城縣

大正四年七月二十九日

茨城縣有志總代

武田 猛
田丸 税 穂

内閣総理大臣伯爵大隈重信殿



御贈位、儀付御願

舊水戸藩行方郡上戸村里正久五郎長男

明治貳拾貳年五月六日
靖國神社合祀被仰付

故 前島德之助

右德之助ハ夙ニ皇朝ノ學ニ志シ武門ノ專横ヲ憤リ
皇室ノ式微ヲ憂ヘ候シガ文久元治ノ際慷慨奮起尊王
攘夷ノ先鋒ヲラントシ家ヲ辞シ天下ノ志士ト交ハリ東
奔西走四方ノ遊説ニ相努メ候文久參年水戸藩郷校潮來
町潮來館誥取締役トナリ總裁林五郎三郎ト共ニ盡ス所
御座候同年四月水戸藩士贈從四位田丸稻之衛門同藤田
小四郎等ノ率ナル筑波山ノ尊攘ノ義軍ニ馳參シ小荷駄
奉行トシテ帷幕ニ參與シ大ニ力ヲ竭シ候同年八月贈正

前島德之助

四位武田伊賀守同山國兵部ガ松平大炊頭ヲ擁シ那珂湊
ニ避ケ幕軍ト戰ヒ圍繞攻撃セラレ筑波山勢ニ援ヲ求ム
ルヤ田丸等ト共ニ多クノ部下ヲ率テ那珂湊ニ到リ候潮
來館總裁林五郎三郎討死スルヤ代リテ隊長トナリテ戰
ヒ候數旬ノ後榊原新衛門幕軍ニ降リ大炊頭等自及テ命
セラレ候ニ付茲ニ田丸藤田ノ筑波山勢武田山國ノ大發
勢ト聯合シ京都ニ登リ事ノ顛末ヲ奏上セントテ西上致
候ニ當リテモ亦小荷駄奉行トナリ全軍ノ會計ヲ細大洩
サス處理致シ備サニ艱難辛苦ヲ嘗メ遂ニ元治貳乙丑ノ
貳月幕府ノ為メ參百餘名ト共ニ敦賀ニ於テ死刑ニ處セ
ラレ候遠島追放各藩預ケ壹千餘名其ノ勤王ノ大義ヲ
辨ヘ率先シテ盡忠報國ノ忠誠ヲ抽テタル事蹟ハ別紙取

御贈位、儀ニ付御願

舊水戸藩行方郡上戸村里正久五郎長男

明治二十九年五月六日
靖國神社合祀被仰付

故 前島德之助

助ハ夙ニ 皇朝ノ學ニ志シ武門ノ專横ヲ憤リ
式微ヲ憂ヘ候シガ文久元治ノ際慷慨奮起尊王
先鋒タラントシ家ヲ辞シ天下ノ志士ト交ハリ東
四方ノ遊説ニ相努メ候文久參年水戸藩郷校潮來
館誥取締役トナリ總裁林五郎三郎ト共ニ盡ス所
同年四月水戸藩士贈從四位田丸稻之衛門同藤田
等ノ率ナル筑波山ノ尊攘ノ義軍ニ馳參シ小荷駄
シテ帷幕ニ參與シ大ニ力ヲ竭シ候同年八月贈正

田伊賀守同山國兵部ガ松平大炊頭ヲ擁シ那珂湊
幕軍ト戦ヒ圍繞攻撃セラレ筑波山勢ニ援ヲ求ム
丸等ト共ニ多ク、部下ヲ率テ那珂湊ニ到リ候潮
裁林五郎三郎討死スルヤ代リテ隊長トナリテ戰
旬ノ後榊原新左衛門幕軍ニ降リ大炊頭等自及テ命
候ニ付茲ニ田丸藤田ノ筑波山勢武田山國ノ大發
合シ京都ニ登リ事ノ顛末ヲ奏上セントテ西上致
理致シ備サニ艱難辛苦ヲ嘗メ遂ニ元治貳乙丑ノ
府ノ為ノ參百餘名ト共ニ敦賀ニ於テ死刑ニ處セ
遠島追放各藩預ケ壹千餘名其ノ勤王ノ大義ヲ
先シテ盡忠報國ノ忠誠ヲ抽テタル事蹟ハ別紙取

前島德之助

調書ニ記載スルガ如クニ御座候因テ本人生前ノ忠節ヲ御旌表被為在御贈位ノ恩典ニ浴セシメラレシコトヲ謹テ奉願上候恐惶敬白

大正七年拾月八日

茨城縣行方郡八代村長

勲七等

小川松之助

茨城縣行方郡八代尋常高等小學校長

河野總吉

茨城縣行方郡八代村在郷軍人分會長

陸軍歩兵等功七級 茂木吉之助

茨城縣行方郡八代村青年矯風會長

前嶋武治

茨城縣行方郡八代村社國神社社掌

茂木保

茨城縣行方郡八代村長國寺住職

内藤義文

茨城縣行方郡八代村大字上戸五番地平民

故前嶋徳之助部下

高塚兵七

茨城縣水戸市上市大町五百九拾番地士族

贈正五位三橋金六弟

三橋

篤

茨城縣水戸市上市天王町九百貳拾四番地士族

贈從四位田丸稻之衛門嗣子

從三位勲三等田丸稅

稔